

特別研修

月例研究会 議事録 (9 月)

2008 年度第 3 回

報告題名 持続可能な地域づくりのための地域文化活動の役割に関する研究	
報告者 飯塚聖司 (所属分野) 環境経済学	日時 15:00-17:00 場所 第7講義室
座長 池田敦	議事録担当者 柳瀬拓美
出席者 米倉、川村、大鎌、石井、両角、長谷部、木谷、伊藤、佐藤章夫、澁谷、鹿嶋、福田竜一、小山田、佐藤文吉、池田、高嶋、田口、松井、村松、ソ、八木、柳瀬、神浦、佐々木、野村、水木	
報告要旨 <p>現在、様々な自治体で地域づくり活動が行われている。その活動は住民が主体的に参加することが期待されているが、住民のコミュニティは衰退傾向にあり、地域コミュニティの再構築は地域づくりにおいてひとつの課題となっている。そこで、本報告では持続的な地域コミュニティの構築のための住民組織の在り方と関係について考える。</p> <p>住民の組織は”地縁組織”と”志縁組織”の2つに分類できる。現在、地縁組織は衰退傾向にあり、志縁組織が主流となりつつある。地域づくりがその地域の特色を生かしたものであり、また、持続的であるためには地域づくりの主体となる組織は地縁性を持っていることが望ましい。中でも伝統芸能などの地域文化活動組織は強い地縁組織であると同時にその活動内容自体人々の求心力を持っており、地域づくりにおける要の組織となりうる。</p> <p>そこで、地域づくり活動において地域文化活動が重要であるということを実証するためのゲーミングを行った。地域文化活動の状態が異なるいくつかの地区の住民に地縁性を持たない外部の人間が考えた地域づくりの提案を聞いてもらう。そしてその提案に対する反応から、その地区が地域の文脈を重視した活動を行いうるか検討する。</p> <p>山形県最上郡金山町有屋地域の3つの地区の住民を対象にしてこのゲーミングを行い、伝統芸能活動の活発な地区において地域の文脈を重視するような反応を得た。すなわち、強い地縁性による結合を持つ集団は地域の個性を活かした多様な地域づくりを行いうると考えられる。</p>	

質疑・応答

澁谷：地域づくりとは、具体的にどのようなことですか？

飯塚：住民のコミュニティが綿密で地域の個性や精神的部分が継承されていく、内向きの活動を基本とした社会的活性化です。その活動が他の地域の人々の目に留まるようなことも十分あり得ると考えています。

渋谷：スライド 20 について。柳原地区の住民が学部生の提案に対して反発しているが、その提案は適切だったのでしょうか？

飯塚：事前に調査を行った上で提案を作成しているが、適切でない提案であっても仕方がなかったのかもしれない。しかし、ここでは、適切でない提案に対してどのような反発がどのような視点からされるかが重要となる実験となっています。

澁谷：副区長は自分の地域以外のことをよく知っている人なのですか？

飯塚：他の地域づくりをどの程度知っているのかは、現段階では評価できていません。

大鎌：スライドの前半部分と後半部分の実験のつながりを説明してください。

飯塚：個性的な地域づくりが実験部分で、共同体の強化というのが、論証部分となっています。

大鎌：共同体の強化と個性的な地域づくりは、どちらが原因でどちらが結果なのか？澁谷美紀さんの民俗芸能の伝承活動と地域生活を読んでもみるとよいと思います。

飯塚：読んでみたいと思います。